

2021年度 第3回 鋼材規格三者委員会 資料14 補足 (修正版)

規格番号	JIS G 0416 追補 1
規格名称	鋼及び鋼製品－機械試験用供試材及び試験片の採取位置並びに調製
担当主査名	山本 治
<p><b>1. 改正の背景・目的</b></p> <p>傾斜厚フランジを持つ形鋼の試験片採取は、ウェブから採取する場合及びフランジから採取する場合が規定されている。ただし、現状の規定では、引合い・注文時の合意が必要な場合及び傾斜厚フランジから採取した場合の機械加工の内容が不明確なため、追補改正で明確化する。</p> <p><b>2. 改正ポイント</b></p> <p>主な改正ポイントを、以下に示す。</p> <p>1) A.2.1 (幅方向の試験片採取位置)</p> <p>傾斜厚フランジの試験片採取位置の規定内容を、次のように明確化する。</p> <p>a) 傾斜厚フランジから試験片を採取した場合、傾斜厚で試験実施が困難な場合、矩形形状に機械加工してもよいことを明確化する。</p> <p>b) ウェブから試験片採取する場合にのみ、引合い・注文時の合意が必要であることを明確化する。</p>	



## 追補 1 のまえがき

この JIS G 0416 の追補 1 は、産業標準化法に基づき、経済産業大臣が JIS G 0416:2014 を改正した内容だけを示すものである。JIS G 0416:2014 は、この追補 1 の内容の改正がされ、JIS G 0416:9999 となる。

JIS DRAFT 2021/12/22



# 鋼及び鋼製品—機械試験用供試材及び試験片の採取 位置並びに調製 (追補 1)

Steel and steel products—Location and preparation of sample and test piece  
for mechanical testing  
(Amendment 1)

JIS G 0416:2014 を、次のように改正する。

---

A.2.1（幅方向の試験片採取位置）を次に置き換える。

## A.2.1 幅方向の試験片採取位置

引張試験片及び衝撃試験片のフランジ幅方向の採取位置は、**図 A.1** による。

ただし、傾斜厚フランジをもつ形鋼、フランジ幅が 150 mm 未満の H 形鋼及び不等辺山形鋼の場合は、次によってもよい。

a) 傾斜厚フランジをもつ形鋼 [**図 A.1 b)** 及び **d)** 参照] は、次による。

1) 傾斜厚フランジから引張試験片を採取する場合、傾斜厚で引張試験を行えないときは、フランジ内面側を機械加工して矩形形状の試験片としてもよい。

2) あらかじめ引合い・注文時に合意した場合は、試験片をウェブから採取してもよい。

b) フランジ幅が 150 mm 未満の H 形鋼の場合には、試験片をウェブから採取してもよい [**図 A.1 f)** 参照]。

c) 不等辺山形鋼の場合、試験片は、いずれの辺から採取してもよい。

**附属書 JA**  
**(参考)**  
**JIS と対応国際規格との対比表**

JIS G 0416		ISO 377:2013, (MOD)		
a) JIS の 箇条番号	b) 対応国際 規格の対 応する箇 条番号	c) 箇条ご との評 価	d) JIS と対応国際規格との技術的差 異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との 技術的差異に対する今 後の対策
A.2.1	A.2.1	変更	JIS は、傾斜厚フランジをもつ形鋼の幅 方向の試験片採取要領について、ISO 規格より明確に規定している。	次回の ISO 規格見直し時に、 JIS の規定内容を提案する。
<p><b>注記 1</b> 箇条ごとの評価欄の用語の意味を、次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 変更：対応国際規格の規定内容又は構成を変更している。</li> </ul> <p><b>注記 2</b> JIS と国際規格との対応の程度の全体評価の記号の意味を、次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ MOD：対応国際規格を修正している。</li> </ul>				